

リフレクションカード 2017年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と生命倫理	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	通年を通して行う助産の理論領域における基礎科目として位置付ける必須科目である。キリスト教的人間観と性と生殖に関する倫理的問題のアセスメントを行うために必要な知識について理解を深める。学習準備については毎週行われるチャペルにおいてキリスト教精神について学ぶ機会を得ている。それらをふまえ、宗教的な捉え方と生命倫理としての性と生殖におけるカウンセリングの重要性や助産師の役割を学ぶ重要な科目として位置付けられる。 昨年度の課題も踏まえ、今年度は助産学領域における生命倫理の課題とされる出生前診断や不妊治療における生殖補助医療に関する内容も追加し学習内容の充実を図った。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	D－P1についての目標達成は99%、D－P3についての目標達成は80%であり、全体の平均は85点であった。 チャペルへの参加、生殖補助医療などの生命の誕生にかかわる倫理的課題をテーマに講義および自己学習、ディスカッションを繰り返し行ったり、生殖補助医療に携わる施設を見学する機会を得ることにより生命倫理への理解へ繋がれたと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必須科目であることから本科目を履修している。知識理解および関心意欲について目標達成されており、キリスト教精神に基づく人間観や助産学領域における生命倫理を学ぶ上で内容的には妥当であると考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	通年の科目であり、チャペルへの参加を通してキリストの教えを継続して学 ぶことができる。さらに、課題テーマについてのレポート作成や施設見学 をもとに自己の生命倫理観を養うことができる内容となっていると考える。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	行動目標は達成されており、更に学びを深められるよう授業計画を 検討していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅱ	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・助産別科は全員が資格取得を目指しており、受講動機をみると「必須科目である」が100%であることはそのことを示唆している。 ・本科目は、理論領域であり実習や専門科目をを支援する基礎科目である。実習では、助産師外来で超音波検査を実施していることもあり、科目内容は講義のみでなく、超音波検査の演習も組み入れている。 ・病態生理や症例の実際を視覚的にもわかるよう講義資料をカラーで示したり、DVD視聴も取り入れながら学生の理解に努めている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しく下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は71点であった。理想レベルに達した者は3名のみであり、再試験対象者はいなかった。「基礎助産学Ⅱ」は、男女のリプロダクションに関する形態・機能、疾患および治療についての講義内容であり、理解した内容を「説明ができる」ことを目標としており、基礎科目ではあるが専門性やレベルは高いといえる。「学習量の評価」の予習・復習時間をみると、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「1回」と回答した学生および「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「1回」と回答した学生はそれぞれ53%、47%であり、「0回」と回答した学生はそれぞれ26%であり、授業準備が十分なされていないといえる。疾患や治療について理解するためには持続的な予習・復習が必要であり、授業への取り組み方が課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、必須である。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には妥当であると考え、一定の成績を収められるよう持続的な予習・復習を行うよう働きかける必要がある。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解・思考判断に対する達成度はやや低かった。本科目は、専門科目につながる内容として妥当であると思われるが、内容を理解するための事前の学習や復習が必要であり、学習量に関して課題がみられた。 ③まとめ 以上より、学習量として予習・復習に関する課題が残るが、内容に関しては妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は全項目をみると平均値3.5～3.6であり、すべての学生が肯定的に捉えていたことより、授業の進め方は概ね良かったのではないかと考える。 ただ、「図書館の図書・雑誌・学術データベース」の利用について、67%の学生が利用していなかったこと、予習・復習に関して1回も行っていない学生は26%いたことなど、授業の取り組み方について課題が残る。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は助産の実践領域(専門科目)の基盤となる基礎科目である。学生の授業評価より、予習・復習に関して課題等で時間がないという意見があったが、必須科目であり、専門科目につながる重要な科目であるため、(少しの時間でも)持続的に学習に取り組めるかが課題といえる。また、演習の授業を通して考える場面の提供について検討する。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	助産別科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子育て支援論	1	前期	選択	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」「関心のある内容である」が各46.2%となっている。 本講義は、妊婦及び夫が「親になる」ために適応・成長していく過程を理解し、父親・母親の親力、育児力向上にむけた親教育の多様な支援のあり方について解説するものである。 受講した学生も関心をもって受講している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、82.5点であり、再試対象者はいなかった。 目標別にみると、知識理解に関しては75.3%、意欲関心に関しては99.5%、態度に関して99.3%であった。子育てに関する様々な支援策や親教育の支援について、知識理解の定着は、まだ十分とは言えないが関心を持って授業に臨んでいることは理解できる。 学生の到達度自己評価においては、全項目において平均値が3.4～3.9となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、知識理解、意欲関心、態度に位置付けられた科目である。知識理解に関しては7割、意欲関心に関しては9割、態度に関しては9割の学生が達成していることから内容的には妥当であると考え。しかし、知識理解に関して他項目から少し低い状況がみられるので検討する必要がある。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、予習復習の時間が半数の学生の取り組みとなっている。本講義はオムニバス科目であるため教員間における授業展開についても情報交換を実施し、授業課題の提供について、学生の学習行動につながる展開を検討したいと考える。 授業の質評価においては、学生の主体的学修ではなく、教員による知識提供にとどまっている状況が伺えるので、学生の関心の高さから、授業展開の工夫が必要である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 従来、助産別科の学生は意欲的な授業の取り組み態度が見られていたが、今年度授業参加に消極的な学生がいることにより、授業の全体的成果が低い状況となっている。今後、授業内容を精選に加え、学生の授業参加への仕組みを検討し、受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	助産別科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産学研究演習	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、助産学で適用される理論や根拠に基づいた助産実践を実証するための研究方法を解説し、助産学研究論文を検討する能力を養い、助産実践上の課題を明確にし、研究課題として発展させ助産実践に役立てるための基礎的な研究能力を養うものである。長期の実習期間を経ながら、実践上の課題を見出し、研究手法を身に付けていくための十分な演習時間を得ることが難しいが、学生個々の課題への達成感を得るために学習段階を学生自身が実感しながら、主体的学習が進むための学習支援を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、85.3点であり、全員が理想的レベルに達した。 目標別にみると、知識理解に関しては85.3%、思考・判断に関しては82.0%、意欲・関心に関しては94.0であった。 学生の到達度自己評価においては、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「職業選択の参考になった」が得点が高くなっている。 また、図書館の利用・文献検索については全員が活用していることから主体的に学習に取り組んでいる姿勢が伺える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけは、「助産の理論領域」の「基礎科目」と位置付けられている。助産実践を行う専門職として、科学的思考を基盤に、助産上の実践課題を探究するための方法として、学修することは重要である。授業の質評価等及び成績からも概ね目的は達成できていると判断できる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	実習を通して、助産実践上の課題を意識し、文献学習を行い、現在の課題をさらに明確にしていく作業により、学生自身がどのように学習を進めていけばいいのか模索している状況から明確に説明できる状況へと変化し、さらに今後の研究計画の糸口を見出すことができ、意欲的な学習機会を得た学生が多く見られた。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	今年度、学習段階を踏みながら、基盤づくりのための文献講読に十分な時間をかけることを考えたが、助産の学生の実習が長期であることにより、心身の負担が大きい中、研究のモチベーションを維持することは、今後検討をしていくことが必要である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産管理学	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	H29年度は非常勤として、急遽講義を引き受けたので、学生のレディネスについてすべて把握しているわけではない。科目についても担当科目の自分の担当部分のみ把握している状況であった。この科目は助産師国家試験の受験資格として必須であるとともに助産師として就職後にしっかりと知っておくことが必要な科目であるので、現場の話を講義に入れながらより分かりやすい講義を目指して授業を展開した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生は授業でも活発に発言し、成績も大変よく、レポートも的確なものとなっていた。学生は授業を通し、しっかりと「管理について」考えることができるようになった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP、CP、カリキュラムマップ、「助産師として習得すべき能力」、「国家試験出題基準」等からみて内容的に妥当である。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	目標は達成できたが、次年度は学生のレディネスも踏まえ、より質の高い講義を展開しようと思う。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	目標は達成できたが、次年度は学生のレディネスも踏まえ、より質の高い講義を展開しようと思う。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度後期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅳ(新生児・乳幼児)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機をみると「必須科目である」が100%、「資格取得に必要なものである」が7.1%であり、学生全員が受講している。本科目は助産の実践領域の専門科目であり、資格取得に必要な科目であるため、このような回答になったと考える。 ・授業内容について、正常新生児関しては母性看護学領域と重なる講義・演習もあり、学習に取り組みやすかったといえる。また、助産教育の視点より、妊娠期、分娩期、産褥期との継続性・関連性を意識し、知識や技術の習得ができるよう努めた。ハイリスク新生児では、疾患に関する講義、NICUでの看護、NCPR(新生児蘇生法)の受講など、正常逸脱実習との関係性も考慮し、授業計画を立案した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価は、レポート提出・演習など自己学習を30%、期末試験70%で実施した。最終的な成績の平均値は87点であった。再試験対象者は0名であり、全員が理想的レベルに達していた。 ・学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が7%、「わりにそうだと思う」が13%、「まあまあそうだと思う」が80%とすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.3)。自己評価について最も高かった項目は「知識・理解(DP1)」に関する項目(質問項目2)、「思考・判断(DP2)」に関する項目(質問項目5)であり、平均値3.5であった。 ってでありであり学習量の評価の予習・復習時間において、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」および「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生は共に33%であり、1回以上予習・復習している学生は67%であった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。学習到達度の自己評価の全項目の平均値は3.3～3.5であり、概ね肯定的な評価と言える。特に「知識・理解」「思考・判断」に関する目標達成について、自己評価の平均値が高かった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価は全項目をみると平均値3.4～3.6であり、すべての学生が肯定的に捉えていたことより、授業の進め方は概ね良かったのではないかと考える。 ただ、「図書館の図書・雑誌・学術データベース」の利用について467%の学生が利用していなかったこと、予習・復習に関して1回も行っていない学生は33%いたことなど、授業の取り組み方について課題が残る。他の授業の課題状況も加味し学習をすすめたが、授業の課題以外の学習については「余裕がなかった」という回答があった。この点についても今後検討する必要がある。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。本科目の達成状況については、授業成績や授業評価アンケート(到達度自己評価・授業の質評価の平均値)より授業計画している内容については概ね達成できていると評価できる。ただ、課題以外の学習を深める時間や復習・予習の時間が不足しているため、講義時間内での事前学習や振り返る時間を設けるなど工夫が必要である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学VI(健康教育演習)	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機で選択率が高かった項目は、「必須科目である」が100%であり、学生全員が受講している。本科目は助産の実践領域の専門科目であり、資格取得に必要な科目でもある。授業評価においてすべてのDP項目が該当することから、包括的な学習が求められる科目だと言える。 ・本科目の授業の運営方法はほとんどが演習時間であり、学びは臨地実習につながっている。健康教育を行う際の企画書・指導案作成においては、昨年同様、担当教員を決めマンツーマンの形をとり学生と関わった。また、健康教育の企画書・指導案は実習を見据えて計画しているものがあり、実習の準備ができるよう演習内容を検討してすすめた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は87点であり、再試験対象者は0名であった。全員が理想レベルに達していた。 ・学生の達成度自己評価をみると、「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」は平均値が3.6で最も高かったが、他の項目もすべて3.4～3.5であり、差がないと言える。健康教育を行う上で技術だけでなくコミュニケーション力について自己評価が高かったことは、学習の成果ともいえ一定の評価に値すると考える。また、学習量の評価として、40%の学生が「1回30分程度の準備をまったくしていなかった」「1回30分程度の復習をまったくしていなかった」と答えている。演習の時間に学習の成果をプレゼンテーションする機会も多く、そのための準備や復習が必要であるため、再度周知させる必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学習到達度の自己評価の全項目の平均値は3.4～3.6であり、概ね肯定的な評価と言える。特に「思考・判断」「技能・表現」に関する目標達成について、自己評価の平均値が高かった。 ③まとめ 以上より、達成度自己評価や成績結果(全員が理想レベル)より、内容に関しては妥当であると考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・「図書館の図書・雑誌・学術データベース」の利用について、73%の学生が利用していなかった。健康教育の企画書や指導案作成・媒体作成にあたっては、知識や根拠が必要だが、テキストだけでなく、雑誌などの文献(新しい知識や現状を把握するため)も利用するよう文献の提示が必要かと思われる。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。成績においては全員が達成できたと言えるものの、達成度自己評価項目「自分なりの目標を達成した」が最も平均値が低かった(3.4)。すべてのDPを網羅している科目であり、包括的な学習が必要ではある。学習する過程において健康教育を行う対象者の目標達成は常に評価しているが、学生自身が目標を達成したか否かでの視点でアドバイス・支援が必要である。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	助産実践領域における専門科目として位置づけられた必須科目である。助産診断の基本的原理を理解し、助産の実践に必要な助産過程の展開について理解できるように、初回講義時に進行内容や必要資料を準備し課題提示について時間をかけ詳細に説明を行った。また、この後の助産学実習と関連が大きい科目であることから実習で使用する記録用紙の見直しを図り、より実践における活用が効果的に行えるよう工夫した。さらに、演習においては1名の教員に対し3-4名の学生を受け持ち継続して携わった。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	妊娠・分娩・産褥・新生児各期における事例について情報収集から計画立案まで、助産過程を展開することで理解を図った。アセスメントを行う上で重要である根拠の記載に関しては、思考判断について課題が残ったものの、目標の達成度はD-P1は97%、D-P2は83%、DP-3・4ともに70%以上であった。全体の平均点は83点であり達成度も80%以上であった。必須科目であるとともに、今後の助産学実習に最も関連する重要な科目であることも関心の大きさにつながったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必須科目であることから本科目を履修している。この後に行われる助産学実習につながる重要な科目である上でDPは全て目標が達成されており、内容的には妥当であると考ええる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本年度は、学生がより積極的に教科書を活用することを意識して授業を計画し、事前学習や記録用紙の改正にも取り組んだ。助産過程に関しては看護基礎教育で履修する看護過程が基盤となることもあり、学生のレディネスを把握して、できるだけ学生の状況をふまえながら個別的に関することを意識してきた。周産期各期における助産過程の展開を実施してきたが、より効果的に学生の理解へ繋げられるよう、作業量や実施のペースについても検討していきたい。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	行動目標は達成されており、今後も更に学びを深められるよう授業計画については検討を重ねていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅶ(助産過程演習)	1	通年	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	助産実践領域における専門科目として位置づけられた必須科目である。助産診断の基本的原理を理解し、助産の実践に必要な助産過程の展開について理解できるように、初回講義時に進行内容や必要資料を準備し課題提示について時間をかけ詳細に説明を行った。また、この後の助産学実習と関連が大きい科目であることから実習で使用する記録用紙の見直しを図り、より実践における活用が効果的に行えるよう工夫した。さらに、演習においては1名の教員に対し3-4名の学生を受け持ち継続して携わった。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	妊娠・分娩・産褥・新生児各期における事例について情報収集から計画立案まで、助産過程を展開することで理解を図った。アセスメントを行う上で重要である根拠の記載に関しては、思考判断について課題が残ったものの、目標の達成度はD-P1は97%、D-P2は83%、DP-3・4ともに70%以上であった。全体の平均点は83点であり達成度も80%以上であった。必須科目であるとともに、今後の助産学実習に最も関連する重要な科目であることも関心の大きさにつながったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	必須科目であることから本科目を履修している。この後に行われる助産学実習につながる重要な科目である上でDPは全て目標が達成されており、内容的には妥当であると考ええる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	本年度は、学生がより積極的に教科書を活用することを意識して授業を計画し、事前学習や記録用紙の改正にも取り組んだ。助産過程に関しては看護基礎教育で履修する看護過程が基盤となることもあり、学生のレディネスを把握して、できるだけ学生の状況をふまえながら個別的に関することを意識してきた。周産期各期における助産過程の展開を実施してきたが、より効果的に学生の理解へ繋げられるよう、作業量や実施のペースについても検討していきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	行動目標は達成されており、今後も更に学びを深められるよう授業計画については検討を重ねていきたい。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度後期

学科	助産別科
氏名	伊藤 直子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
地域母子保健	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は、「必修科目である」100.0%となっている。 本講義は助産師として、助産師として地域で母子保健を推進するうえで必要な母子保健行政の仕組みや制度、社会資源、保健医療福祉関係職種との連携等について、最近の動向を踏まえ、グローバル社会における今後の活動を展望する講義内容として計画している。受講動機は、必修であることを全学生が理解しておらず、科目への関心も低いことがわかる。本科目の意義を理解し、地域母子保健における意欲関心を深めていくことが必要である。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は、81.3(79.0)点であり、再試対象者はいなかった。標準的レベルに達した学生が100(100)%であり、内、理想的レベルに達した学生は、66.7(42.9)%であった。 目標別にみると、知識理解に関しては81(82.7)%、意欲関心に関しては81(72)%、態度に関して92(81)%であった。前年度()内数値でみれるように、意欲関心・態度は今年度数値が高い状況がみられる。助産師としての地域母子保健を推進するうえでの意義については、全員の学生が十分理解し、授業にも参加する状況が前年度より改善された結果がみられる。 学生の到達度自己評価においては、全項目において平均値が3.5～3.7となっている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	DP・CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性 本科目は、知識理解、意欲関心、態度に位置付けられた科目である。知識理解に関しては8割、意欲関心に関しては8割、態度に関しては9割の学生が達成していることから内容的には妥当であると考え。しかし、意欲関心に関してが他項目から少し低い状況がみられるので検討する必要がある。地域母子保健の内容が母子保健行政や仕組みの理解だけに終わることが内容に、今後の課題及び展望を含めて、学生の意欲関心を高めることに努めたいと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価において、予習復習の時間が半数の学生の取り組みとなっている。本講義は3人の教員による展開となっているため、教員間における授業展開についても情報交換を綿密に実施し、授業課題の提供について、学生の学習行動につながる展開を検討したいと考える。 授業の質評価においては、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」「説明は理解しやすいものであった」「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」のいずれの項目においてもそうでないと思う等の否定的意見はみられなかった。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目の達成状況については、授業成績および授業評価アンケートより計画している状況は概ね達成できていると評価できる。 従来、助産別科の学生は意欲的な授業の取り組み態度が見られていたが、今年度授業参加に消極的な学生がいることにより、授業の全体的成果が低い状況となっている。今後、授業内容を精選に加え、学生の授業参加への仕組みを検討し、受講学生全員の達成状況が理想的レベルに達するよう検討を加えていきたい。
------------------------------	--